

優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト 及びバリューチェーンマップの公表にむけて



デコ活
くらしの中のエコろがけ



※本資料では、各用語を省略記載
NP : ネイチャーポジティブ
NPE : ネイチャーポジティブ経済
VC : バリューチェーン
SC : サプライチェーン

1. ロングリスト及びVCマップの検討進捗等
2. 意見公募結果と対応方針
3. 公表資料一式の構成・内容案
4. ご議論いただきたい論点

1. ロングリスト及びVCマップの検討進捗等

優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト及びVCマップの整理プロセス

- 優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト及びVCマップは、以下のプロセスに沿って検討。
- 今年度は、「優先対象分野に関するコアメンバー会議」における検討や企業等への意見公募・調整等を踏まえて最終化・公表予定。

プロセス① 優先対象分野の特定

- ・ 分野別の自然への依存、影響度（ENCORE上のデータ）及び国内産業規模（内閣府「経済活動別国内総生産（名目）」の2022年度データ）を踏まえ、優先対象分野を特定。

⋮

ロングリストの概要や優先対象分野の特定結果（詳細）は、第7回研究会資料※を参照

プロセス②-1 リスク・機会ロングリストの整理

- ・ 優先対象分野ごとに自然関連リスクと機会について、TNFD、WBCSDが公開しているガイダンス等から引用し、整理する。
- ・ 整理したリスクと機会ごとに、対応策をAR3Tミティゲーションヒエラルキー分類別に整理
- ・ 上記リスクと機会、対応策に関する企業事例を掲載。

プロセス②-2 リスク・機会VCマップの検討・作成

- ・ プロセス②-1の整理結果を踏まえて、VCの上流～下流におけるリスクと機会及び対応策を要約し、関係性を可視化したリスク・機会VCマップを検討・作成。

優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト及びVCマップの検討進捗・方針



- 第7回NPE研究会以降は、掲載対象企業、電機・電子4団体、関係省庁等から得られた意見を踏まえた各種更新を実施している。
- 今年度中に**2回のコアメンバー会議やTNFDフォーラムメンバー企業向け意見公募等を経て最終化・公表予定。**



優先対象分野
(リスク・機会ロングリスト等)

第1回コアメンバー会議における検討事項

- 優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト及びVCマップについて、公表資料構成・イメージや、普及・活用促進に関する議論を実施。
- ロングリスト及びVCマップの更なる改善に向けて、TNFDフォーラム加盟企業等に対する意見公募方針について議論。

第2回コアメンバー会議（本日）における検討事項

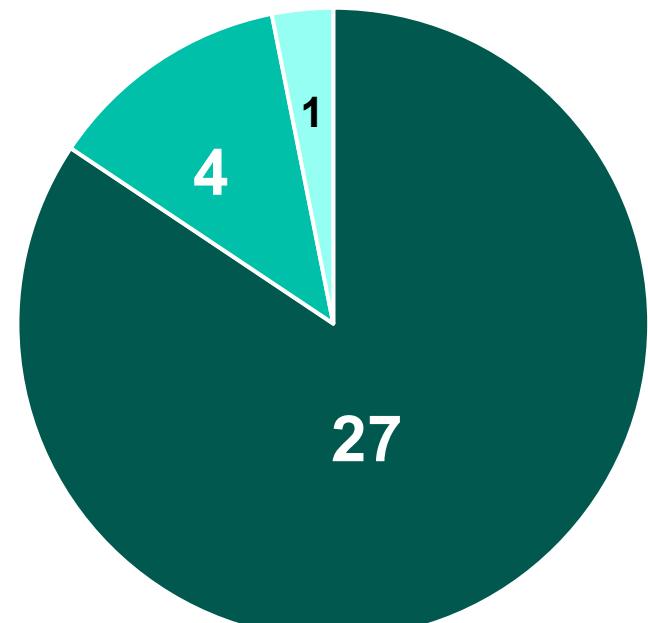
- TNFDフォーラム加盟企業等への意見公募の実施結果を踏まえた、ロングリスト・VCマップの内容改善に関する議論を実施
- その他、最終化・公表に向けて、掲載対象企業・関係省庁等に対する各種照会、資料更新を継続実施

2. 意見公募結果と対応方針

意見公募の概要：回答者の組織タイプ及びTNFD開示の対応状況

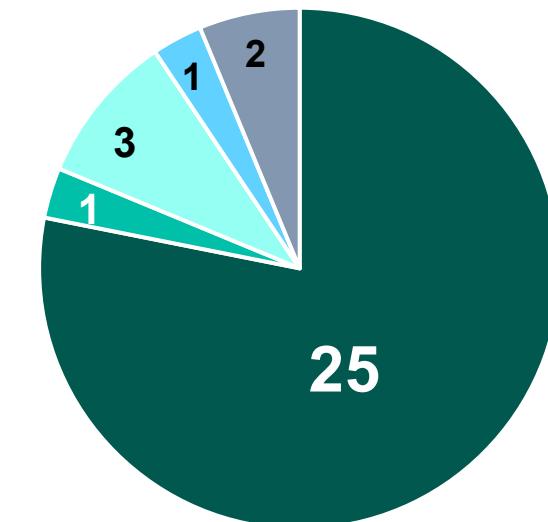
- 2025年12月2日～12月25日の約3週間でTNFDフォーラム加盟団体（総数：339団体）を対象に意見公募を実施（総数は2026年1月現在）。
- 合計32名にご回答いただき、内訳は27名が「企業」、4名が「金融機関」、1名が「NGO/NPO」だった。
- また、TNFD開示に着手しているのは合計29名であり、内訳は25名が「TNFD開示公表済み」、1名が「トライアル開示済み」、3名が「未公表だが準備中」だった。

組織タイプ[°]（単一選択）



n=32

TNFD開示の対応状況（単一選択）



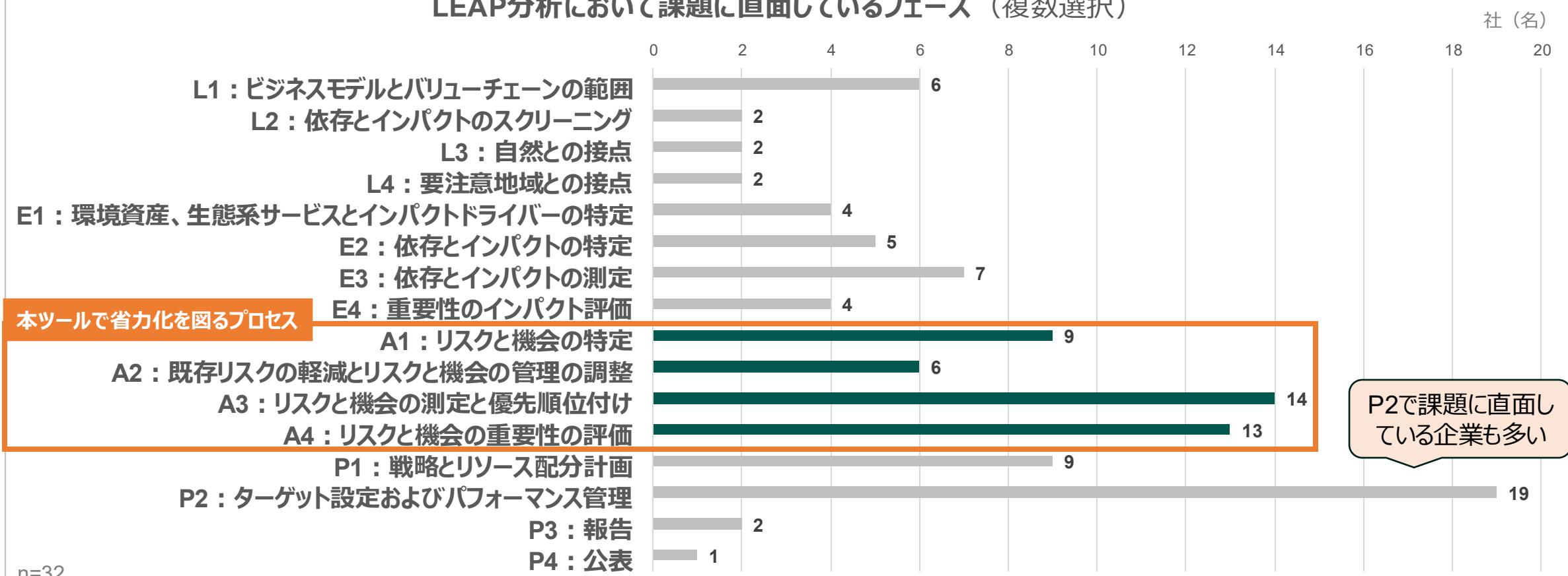
- TNFD開示公表済み
- トライアル開示済
- TNFD開示未着手
- その他（NPO等）

n=32

回答者がLEAP分析において課題に直面しているフェーズ

- ロングリスト及びVCマップは企業の皆様が抱える課題に基づき、主にAssess（評価）フェーズでの省力化を目的として整備した。
- 意見公募でも、Assess（評価）フェーズで課題に直面していると回答した企業が多かった。
- 上記に加えて「P2：ターゲット設定およびパフォーマンス管理」で課題に直面していると回答した企業が多かった。

LEAP分析において課題に直面しているフェーズ（複数選択）

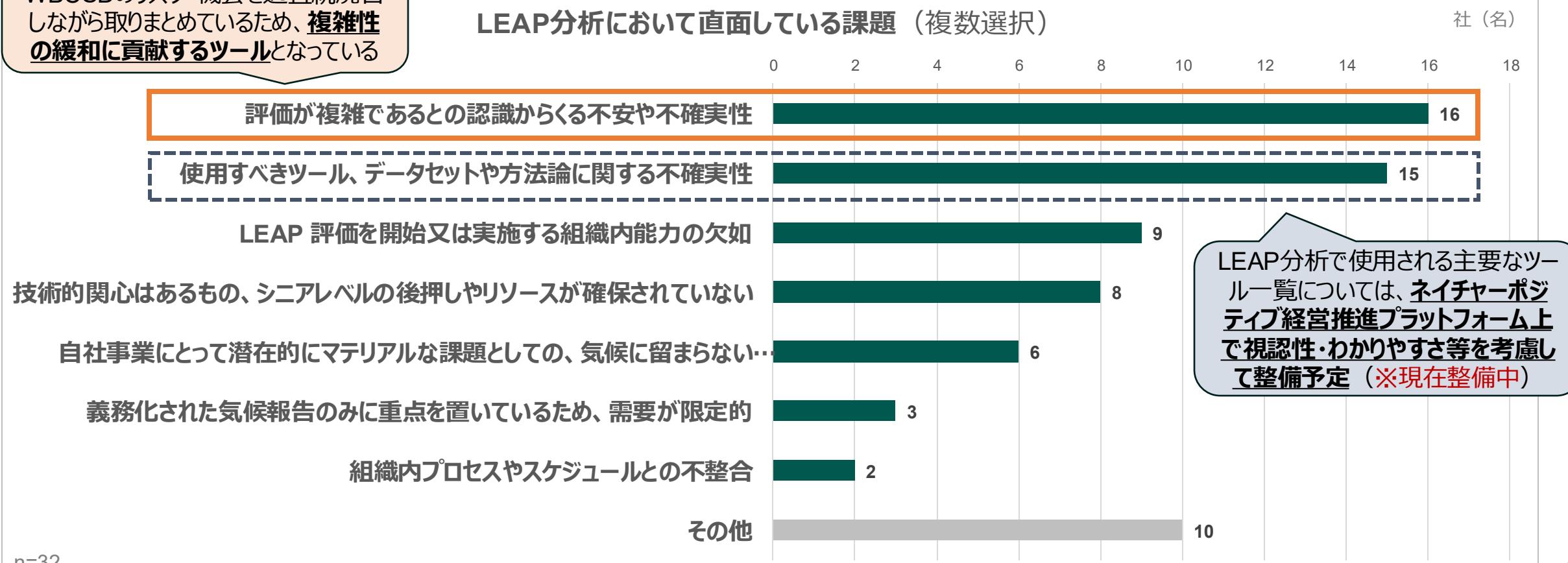


回答者がLEAP分析において直面している課題

- 直面している具体的な課題としては、「評価が複雑であるとの認識からくる不安や不確実性」、「使用すべきツール、データセットや方法論に関する不確実性」を選択した人が多かった。

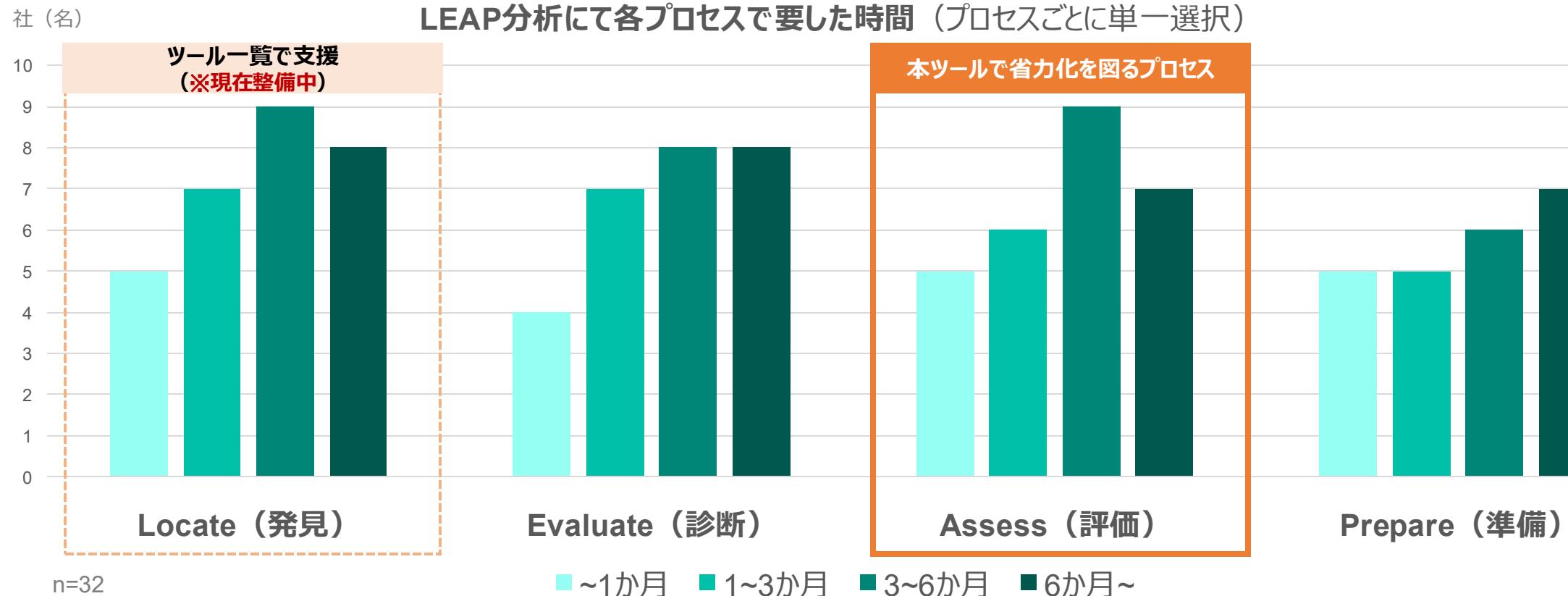
ロングリスト及びVCマップではTNFD・WBCSDのリスク・機会を適宜統廃合しながら取りまとめていたため、複雑性の緩和に貢献するツールとなっている

LEAP分析において直面している課題（複数選択）



回答者がLEAP分析にて各フェーズで要した時間

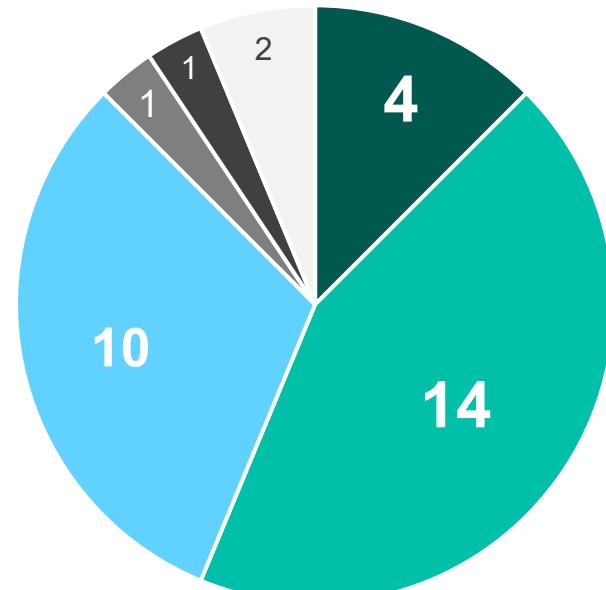
- ロングリスト及びVCマップは主にAssess（評価）フェーズでの省力化を目的として整備したが、各フェーズにおける分析に要した時間については、「3~6か月」と回答した人がLocate（発見）フェーズと並んで最も多く、省力化にお役立ていただける余地が大きい。
- Locate（発見）フェーズが他フェーズと比較して時間を要していることが伺えるが、当該フェーズに対しては、LEAP分析で使用される主要なツール一覧を、ネイチャーポジティブ経営推進プラットフォーム上で視認性・わかりやすさ等を考慮して整備することで支援する。
(※現在整備中)



Assess（評価）フェーズにおける省力化に繋がり得ると感じるか

- **18/32名（約56%）** が省力化に繋がり得ると回答した。（うち、4名が「強く同意する」、14名が「同意する」と回答）
- また、10名が「どちらとも言えない」と回答したが、「どのような省力化に繋がると感じるか」という自由記述の設問では下記一例のようにポジティブなコメントを寄せた人が多かった。
- Locateが困難であるという課題に対しては前述のとおりツール一覧の整備等で対応する想定である。

Assess（評価）フェーズにおける省力化に
繋がり得ると感じるか（単一選択）



n=32

“リスク・機会がわかりやすくまとめられており、業種ごとの事例も豊富にあるなど、これまで情報をまとめるだけでも時間がかかっていた。また、社内での議論をする際にも、事前の説明資料として有用。”

（「強く同意する」と回答）

“手本となる企業のデータ、信頼できるソースからのデータをもとにまとめられているので、これらを特定し調査する手間が省ける。”

（「どちらとも言えない」と回答）

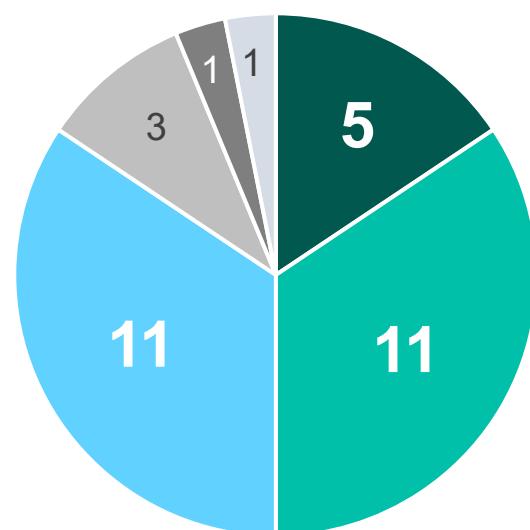
“ロングリストを参照することで、自社事業の何から取り組むべきかの優先分野特定の一助になる可能性はあるが、根本的な問題である「Locate」が困難であるというトレーサビリティの課題に進歩がなければ、効果は限定的ではないか。”

（「どちらとも言えない」と回答）

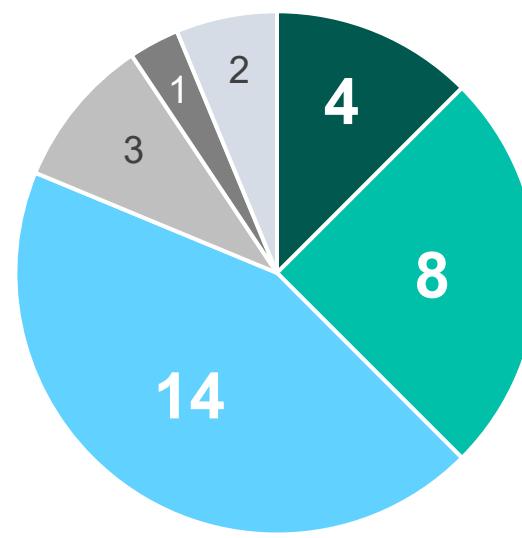
社内外のステークホルダーとの自然に関する会話や理解が深まると感じるか

- 「強く同意する」、「同意する」と回答した人が①は16/32人（50%）、②③は12/32人（38%）であり、ロングリスト及びVCマップをコミュニケーションツールとして活用可能と感じる人が一定数存在することがわかった。
- 他方で、「どちらとも言えない」と回答した人も①は11/32人（34%）、②③は14/32人（44%）であり、意見公募内の各資料の改善等に関する自由記述の設問への回答や個別ヒアリングにて、「具体的にどのようにコミュニケーションツールとして活用してよいかわからない」という御意見をいただいた。
- 上記を踏まえ、「資料1」に後頁のスライドを追加することで改善を図った。

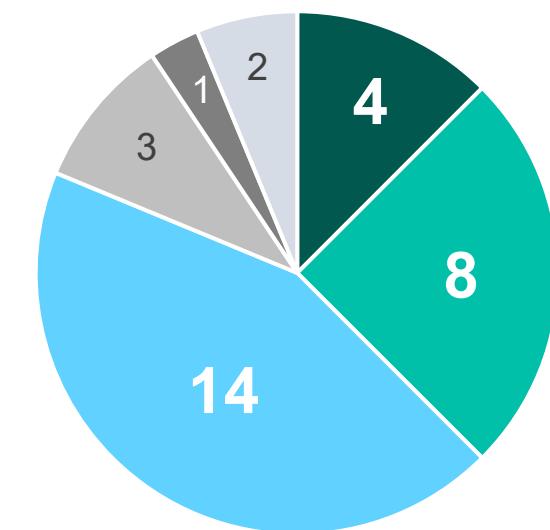
①組織内（部署間等）の自然に関する
会話や理解が深まると感じるか（単一選択）



②VC上の取引先との自然に関する
会話や理解が深まると感じるか（単一選択）



③投資家、融資元、債権者との自然に関する
会話や理解が深まると感じるか（単一選択）



(参考) 追加資料：各ステークホルダーとのコミュニケーションにおける活用方法（例）

- ロングリスト及びVCマップは、主に企業のTNFD担当部署において、自社にとって重要なリスク・機会の洗い出しや優先度評価の実施に向けたインプットとして活用されることを想定している。
- また、社内外の各ステークホルダーとのコミュニケーション（リスク・機会の分析、対応策の検討等）にあたっても活用可能。
- さらに、金融機関・投資家等との対話においても、重要なリスク・機会の洗い出しや優先度評価の実施、対応策の推進状況を訴求するために活用可能。

対 経営層

- 経営/事業戦略に、自然関連リスク・機会、対応策を統合させる必要性等について訴求するために活用

対 現場・事業部

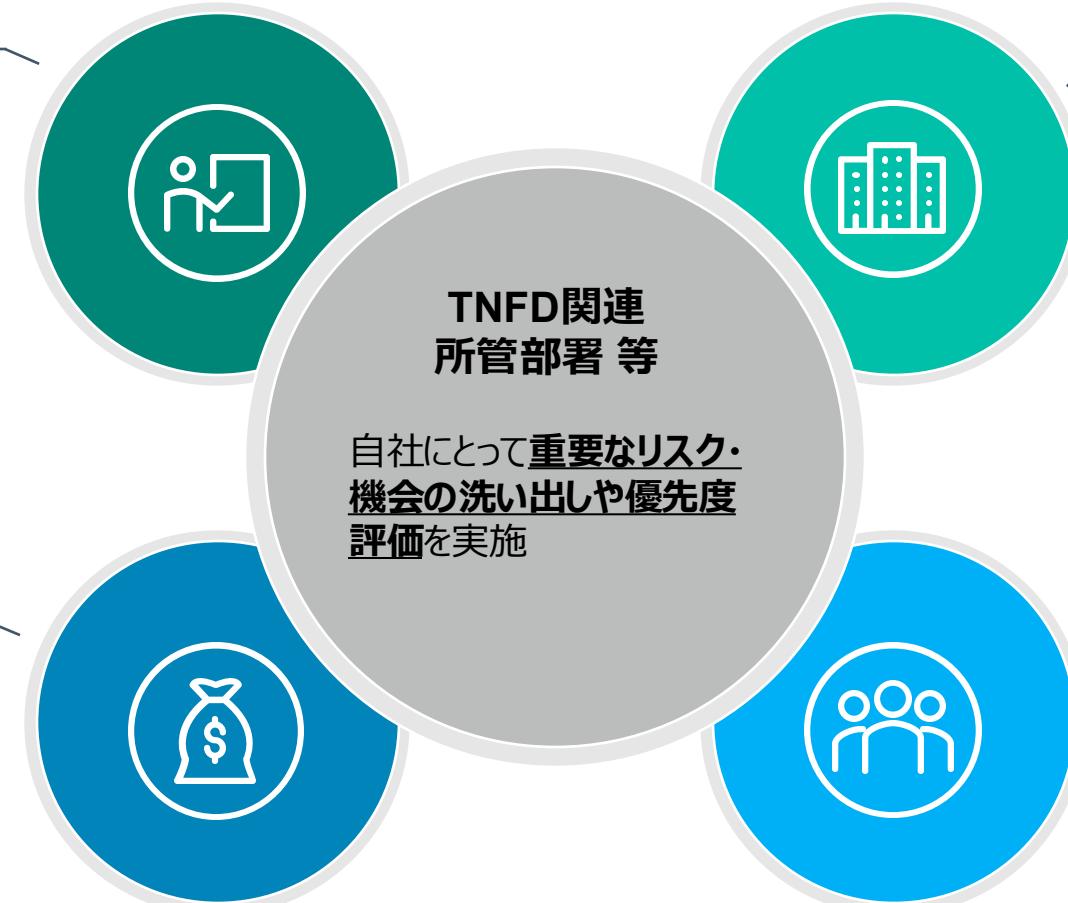
- 事業内容・環境を踏まえたリスク・機会の洗い出しや、優先度評価に向けた協議のたたき台として活用

対 VC上の企業

- VC上の企業に影響が波及するリスク・機会を確認し、その対応策等について対話するために活用

対 金融機関・投資家

- 投融資の獲得に向けて、重要なリスク・機会の洗い出しや優先度評価を実施し、対応策を推進していることを訴求するために活用



全体に関する御意見と対応方針

#	御意見	対応方針
1	<ul style="list-style-type: none"> 担当者だけでなく経営層にも説明できる内容（企業価値向上につながることをうまく図示する等）、サプライチェーン上の企業の協力を仰ぐ過程で分かりやすい内容とすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料1の「はじめに」に、並行して検討している「<u>企業価値向上ストーリー集</u>」の内容（一部抜粋）を追加することで対応する。 (※本日時点では暫定版資料。策定・公表時には最新版資料に置き換える予定)
2	<ul style="list-style-type: none"> <u>リスクと機会に関する影響度および頻度</u>を反映できると企業のアクションにつながりやすくなるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 影響度・頻度を明確な基準に基づいて示すことが方法論・スケジュールの観点で難しいため今年度は追加対応なしとし、<u>次年度以降、利用者のニーズを踏まえ、検討</u>する。（企業の開示事例を紐づけているため、開示事例の多さ等で一定の絞り込みは可能と認識）
3	<ul style="list-style-type: none"> 有機物を原料としてあまり使わない<u>電気電子機器製造業向けのVCマップとロングリストを別途作成して頂きたい</u>。鉱物など無機物質を原料とする電子部品を購入し、電気・電子機器を組立、販売する製造業者向けのものが欲しい。 <p>(以下類似意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の産業分野への展開などの<u>今後の展望について明確にしてほしい</u>。特に日本として自動車、半導体分野等への拡張は検討したほうが良いのではと感じた。リリース後の使用感について主要企業へのアンケート調査等を実施し、実業務での活用という視点からアップデートの方向性を決めたほうが、より広く活用されるツールとなると思う。 <u>セクター分類をもっと細かくしてほしい</u>。そうすることで、自社に当てはまる事例を見つけやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「セクター中分類」で「全般」としているリスク・機会については<u>電気・電子機器セクターや自動車セクターにも関連し得ることを追記・強調</u>することで対応。 公表後にアンケート調査等を通じて利用者ニーズを幅広く把握し、その結果を踏まえ、必要に応じて改善内容を検討する。
4	<ul style="list-style-type: none"> 現時点ではこれでよいが、<u>製造業については将来的に関連分野との相乗効果を見るべき</u>ではないか。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> <u>Assessに至るまでのLocate・Evaluateのガイダンスも、極めて簡素で構ないので加えた方が宜しいか</u>と思う。Assessを自力で行うCapabilityの無い企業がLocate・Evaluateを実行できるとは思えない。 <p>(以下類似意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> Locateごとの依存・影響は会社ごとの検討事項ではあるが、<u>業界全体の依存・影響をまとめてあるといいのでは</u>と感じた。 資料全般において、<u>Location情報が不足</u>しており、商材におけるVCごとの依存・影響のリスクが分からないと次の分析につながらず、省力化につながらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回は<u>Assessフェーズの省力化を主眼</u>とし、TNFD・WBCSDのガイダンスにおけるリスク・機会を抽出しているが、自然への依存・影響との関連性について、各社で判断・検討できるよう事務局にて<u>少しでもわかりやすい記載</u>とするほか、<u>関連する生態系サービスを適宜追記</u>することで対応した。 また、Locateフェーズの支援を目的に、<u>主要なツール</u>（ENCORE、IBAT等）<u>とその概要を一覧化し、ネイチャーポジティブ経営推進プラットフォーム上に掲載</u>することで対応。（※現在整備中）

「資料1：ロングリスト及びVCマップのご利用にあたって」に関する御意見と対応方針（1/2）



#	御意見	対応方針
6	<ul style="list-style-type: none"> HPの絞り込み機能にあります「<u>セクター大分類」「セクター中分類</u>について、どの産業分類をもとにしたものなのかを明記して頂きたい。また各ツールで採用されている産業分類の説明を追加して頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> セクター大分類（=優先対象分野）については、ISICコードとJSICコードの紐づけを行った。また、セクター中分類についてはTNFDのセクターガイダンスを踏まえて定義した（ご利用にあたっての資料に説明を記載）。 情報過多になることを避けるために、セクターの定義について<u>お問い合わせいただければ説明対応</u>する想定。
7	<ul style="list-style-type: none"> 概要・ご利用方法の資料P7にあります「（前頁のとおり）LEAPアプローチでは「Locate」で影響を受けやすい地域を特定し、「Evaluate」で自然への依存・影響を特定した上で、「Assess」で関連するリスク・機会を特定することが推奨されている」の説明について、より正確な表現とするために<u>以下の赤字の追記を希望</u>します。 <p>「（前頁のとおり）LEAPアプローチでは「Locate」で影響を受けやすい地域を特定し、「Evaluate」で<u>インパクト要因と外部要因から生じる依存経路とインパクト経路を用いて</u>自然への依存と影響を特定した上で、「Assess」で関連するリスク・機会を特定することが推奨されている」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 御意見のとおりに対応した。
8	<ul style="list-style-type: none"> 今回作成された動画においては、リスク・機会ロングリスト及びVCマップ利用にあたっての留意点として、資料1～3を通して簡潔に説明されており、作業に着手するためのとっかかりとしてはよい。 ただし、<u>TNFDに習熟していない企業</u>にとっては、具体的にどのように実務で実践できるかが理解されないことが懸念される。改善策としては、例えば、<u>活用事例を具体的に紹介するほか、実務でそのまま実践できるよう具体的な手順を説明</u>することが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>ロングリスト及びVCマップの特徴を示したスライドを更新したほか、社内外のステークホルダーとのコミュニケーションにおける活用方法（例）についてのスライドを追加</u>することで対応した。
9	<ul style="list-style-type: none"> 第1回コアメンバー会議で、<u>WEF発行のセクターガイダンスのレファレンスがあるとよい</u>旨の発言があった。しかし、今回の資料上ではその発言への対応がなされていないので、どのような考え方のもとにこの整理となつたかを確認させていただきたい。 <p>（WEFのセクターガイダンスNature Positive Transitions: Sectors World Economic Forum）</p> <p>※たとえば、製造関連分野として、自動車セクター等も含まれており、製造関連分野のセクターをさらに細分化できる余地がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意見公募実施後にWEFのガイドラインを含め、今回の調査・整理では参照していない<u>参考文献を取りまとめ、紹介スライドを追加</u>することで対応した。（WEFのガイドラインはTNFD・WBCSDのガイドラインと異なり、リスク・機会を一覧から抽出できる仕様ではなかったため、今回は参考文献として整理） また、各優先対象分野全般に関連すると考えられるリスク・機会については、<u>セクター中分類で「全般」というフィルタを追加</u>しているほか、<u>資料1及びロングリスト（Web版）上部でも補足説明を追加</u>することで対応した。

「資料1：ロングリスト及びVCマップのご利用にあたって」に関する御意見と対応方針（2/2）



#	御意見	対応方針
10	<ul style="list-style-type: none"> TNFDの各種ガイダンスが存在する中、<u>なぜ環境省として当該資料を発表したのかについての解説があると、当該資料の立ち位置がより明確になる</u>と考える（セクター別ガイダンスの要約資料なのか、TNFDガイダンスの欠落部分を補足するためか、日本独自の視点を強調するためなのか等）。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料1の「はじめに」にて、当該ツールが「分析序盤プロセスの省力化を図ることで、より各社特有の分析となる「地域性分析や対応策の検討」へ注力いただくことを目的」としていることを追記した。
11	<ul style="list-style-type: none"> <u>ロングリストやVCマップ記載の内容だけを検討すればよいものではない（リストの中から取捨選択することや、記載にない内容も検討する余地がある）ことをきちんと理解してもらえるよう強調してほしい</u>。その点が伝わらないと、形骸化した金太郎飴のような開示事例が増えるだけになる。 	
12	<ul style="list-style-type: none"> 自然関連リスクについて、地域企業と地域金融機関の対話の好事例があると参考にな。 いろいろな活用を紹介されたが、具体的にどうやって活用するのかがいまいち理解できなかつた。そのため、各ステークホルダーごとにおいて、簡単な活用例を示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度中の完成を予定している「企業価値向上ストーリー集」において、対話に関する好事例等を含められないか検討する。

「資料2：VCマップ」に関する御意見と対応方針



#	御意見	対応方針
13	<ul style="list-style-type: none">・<u>製造業の機会の下流について、記載がない</u>。これは企業のモチベーションにつながらないのではないか。製造業は、製品・技術を通じて自然資本に貢献できる点をもっと見出すべきではないか。	<ul style="list-style-type: none">・御指摘を踏まえ、農林水産関連分野・製造関連分野の記載を参考として、<u>VCマップにて「環境配慮型技術・製造システムの導入等を推進することで、環境配慮型製品/サービスの需要の増加に対応（＝売上が増加）」</u>を追記した。
14	<ul style="list-style-type: none">・製造関連分野のVCマップに、上流も含めての<u>製造拠点の設立による土地改变のリスクの明記がない</u>点が気になった。	<ul style="list-style-type: none">・生態系サービス減少の原因が「製造拠点の設立」であることはあり得るが、ガイダンス上は「自然の劣化又は損失により～」としか記載がない。・したがって、原文に忠実にという方針を踏まえて明記はしていないものの、既にVCマップ・ロングリストに左記のリスクも内包されている。

「資料3：ロングリスト」に関する御意見と対応方針



#	御意見	対応方針
15	<ul style="list-style-type: none"> 今後、TNFDフォーラム企業等のフィードバックも踏まえ、列の幅や色や罫線の調整などを通じて、<u>視認性が改善することによって、活用利便性が向上することを引き続き期待</u>している。 	<ul style="list-style-type: none"> 本コアメンバー会議後にネイチャーポジティブ経営推進プラットフォームへの搭載を予定しており、<u>御意見を踏まえて適宜調整・改善を図る</u>想定。
16	<ul style="list-style-type: none"> 移行リスクや物理リスクを特定する際の考え方が、シングルマテリアリティの考え方方に偏り過ぎているため、よりダブルマテリアリティ的な考えに基づくリスク事例を記載してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> マテリアリティは各社で判断いただく必要があるため、ダブルマテリアリティ関連の記載はせず、生物多様性の毀損等が企業に対して与える経済的な影響（売上・コストの増減）について記載した。
17	<ul style="list-style-type: none"> <u>海外企業の事例</u>も参照できると良いのではと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本企業とは環境が異なるため当初より調査対象外として整理済み。次年度以降、利用者のニーズを踏まえ、検討する。
18	<ul style="list-style-type: none"> <u>気候変動（TCFD関係）などがSORTできるよう列を追加</u>して欲しい。【例：分類（気候変動、土地利用、資源、汚染、侵略的外来種）】 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスによってインパクトドライバーの紐づけがあるものとないもののが存在するため、事務局の紐づけによるミスリードを防ぐために未実施。次年度以降、利用者のニーズを踏まえ、検討する。
19	<ul style="list-style-type: none"> ひとつの企業を絞りたくても、かなりの項目(セル数)を見る必要があり、取りこぼしが出そうなので、<u>別シートへ、まとめる機能があるとありがたい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 公表後にアンケート調査等を通じて利用者ニーズを幅広く把握し、その結果を踏まえ、必要に応じて改善内容を検討する。
20	<ul style="list-style-type: none"> 現状存在している認証（例：水であれば水循環アクティブ企業、AWSとか）・基準（例：森林・農業であればSBTiのFLAGとか）とのタグ付けなどの<u>関連情報との連携</u>があると、自社既存施策とのリンクがしやすくなる。 	

3. 公表資料一式の構成・内容案

公表予定資料一式の構成案



- 下記の資料 1～3 を資料一式として、ネイチャーポジティブ経営推進プラットフォーム上に掲載予定。
- 公表予定資料一式については、本会議資料 3 別添①②をご参照いただきたい。資料 3 については投影してご説明する。

資料名	形式	概要
資料 1 : ロングリスト及びVCマップの <u>概要及びご利用にあたって</u> 別添①	PDF	<ul style="list-style-type: none">・ ロングリスト・VCマップの活用シーン・ 特徴、活用方法等・ 優先対象分野の特定方法、リスク・機会及び対応策の整理方法・ 出典一覧（抽出元ガイドライン、TNFD企業開示リンク）等
資料 2 : 優先対象分野別自然関連リスク・機会 <u>VCマップ</u> 別添②	PDF	<ul style="list-style-type: none">・ 優先対象分野毎のVCマップ（概要版・詳細版）
資料 3 : 優先対象分野別自然関連リスク・機会 <u>ロングリスト</u> 投影のみ	Web、Excel	<ul style="list-style-type: none">・ 優先対象分野毎のリスク・機会、対応策のロングリスト・ 出典一覧（抽出元ガイドライン、TNFD企業開示リンク）

4. ご議論いただきたい論点

優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト及びVCマップ等について、各テーマごとに御意見をいただき、ディスカッションさせていただきたい。

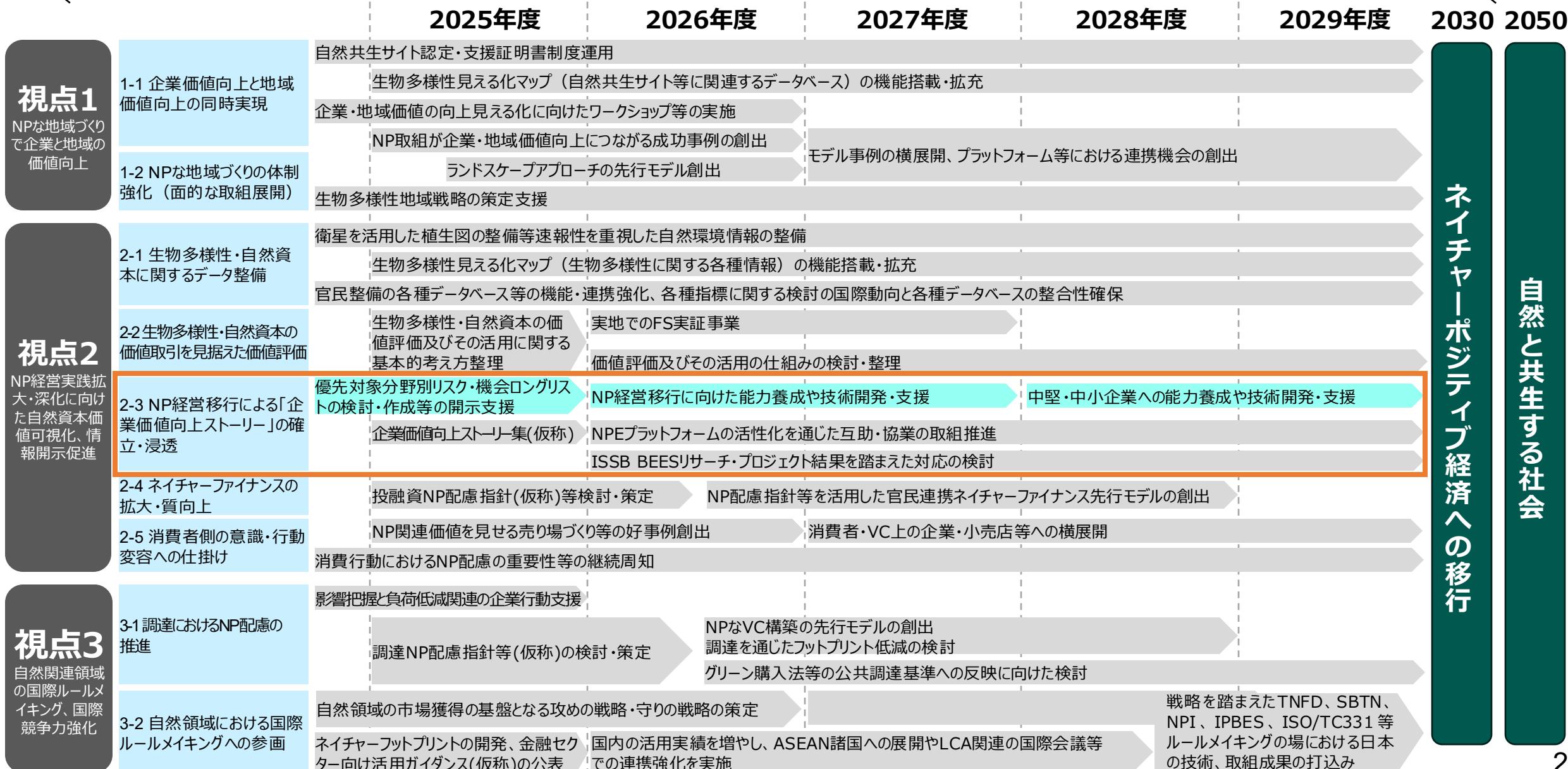
【論点①資料一式の構成・内容案】

- ・意見公募や委員の皆様からの御意見を踏まえて資料一式を作成/更新しているが、策定・公表に向けて改善すべきポイント等はあるか。

【論点②公表以降の展開】

- ・公表以降の優先対象分野別自然関連リスク・機会ロングリスト及びVCマップに関する施策展開について、ロードマップを踏まえ、下記の案を検討しているが御意見等はあるか。
 1. NP経営移行に関する勉強会やワークショップ等においてロングリストの周知や実践に向けた具体的な活用方法の共有
 2. VCマップを含め、今般作成する成果物のうち、主たる資料の英訳

(4) ネイチャー・ポジティブ経済移行戦略ロードマップにおける国の施策



環境省における生物多様性・自然資本配慮企業向け支援策の全体像（～2025年度）

- 環境省は企業の生物多様性・自然資本配慮を支援するため、情報把握、リスク・機会特定から、データ・ツール、事例集、各種ガイドライン等を整理



[2-3]
NP経営移行による「企業価値向上ストーリー」の確立・浸透



- ✓ サプライチェーンの自然資本関連リスク・機会を整理

4

企業価値向上ストーリー集(仮称)

- ✓ 「NPを通じた企業価値向上までのストーリー集（事例集）を整理
- ✓ 調達におけるNP配慮等の必要性について、適宜企業価値向上ストーリーと連携して記載予定

[3-1]
調達におけるNP配慮の推進

Encore等を使用した自然影響度合いのスクリーニング、
SBTNハイインパクトコモディティリスト等を活用した重要コモディティ特定



- ✓ SCの自然資本関連情報分析のステップと目指すべき水準感を整理（令和4年度）

3

影響・依存等の把握にあたり有効なツールやその特性/使い方等に関する取りまとめ結果

- ✓ データ・ツール等を体系整理し、NPEプラットフォームへ掲載

5

調達NP配慮指針等(仮称)

- ✓ ハイインパクトコモディティを取り扱う日本企業向けのガイドライン・指針を整理
- ✓ 次年度以降、指針を活用した、先行モデルを創出（第2回コアメンバー会議にて議論）

[2-5]消費者側の意識・行動変容への仕掛け

NP関連価値を見せる売り場づくり等の好事例創出

ネイチャーファイナンスの拡大により、地域や企業レベルでの導入が社会から評価される仕組みを構築

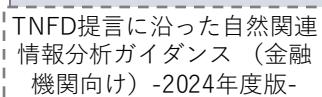
[2-4]
ネイチャーファイナンスの拡大・質向上

6

ファイナンスNP配慮指針等(仮称)

- ✓ 日本金融機関・投資家向けのガイドライン・指針を整理
- ✓ 次年度以降、指針を活用した、先行モデルを創出（第2回コアメンバー会議にて議論）

再掲



(BRIDGE)ネイチャーフットプリントを用いた金融/投資機関における活用のための実証事業